

『神の業が現れるため』井上隆晶牧師

エゼキエル書 18 章 1～4、19～20 節、ヨハネによる福音書 9 章 1～12 節

①【罪は遺伝しない】

イエス様は通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられました。イエス様があまりにもじっと見つめていたからでしょうか、弟子たちはイエス様に尋ねます。「この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですが、それとも両親ですか。」(2 節) ユダヤでは障がいは罪の結果であると考えられていました。日本でもそうです。某新興宗教では病気や障がいは先祖が罪を犯したからだと教えます。昔も今も変わらず人間は「誰のせいで病気になった、誰のせいで不幸になった」と不幸の原因探しをしようとしています。この責任転嫁ともいべき悪い考え方は人類が最初に罪を犯した時に現れた症状でした。アダムは「女が…与えたので食べました。」と言い、エバは「蛇がだましたので、食べてしまいました。」と言いました。(創世記 1 : 12、13) しかしキリスト教には因縁・因果のような考え方はありません。預言者エゼキエルはこう神の言葉を告げます。「罪を犯した本人が死ぬのであって、子は父の罪を負わず、父もまた子の罪を負うことはない。」(18 : 20) 先祖や親の罪は子に遺伝しません。遺伝子や血液の中に罪は入っていません。原罪の教えには罪が生物学的に遺伝するという考えはありません。それはカルト宗教がいう事です。私たちは生まれた時は皆清いのですが、すべての人が必ず罪を犯すようになるという事実を原罪といいます。もし罪が遺伝するなら、すべての責任はアダムにあることになり、それこそ責任転嫁になってしまいます。また、神は罪を創造する者になってしまいます。

②【神の業があらわれるために病気や障がいはある】

これに対しイエス様は「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現われるためである。」(3 節) と言われました。この人や両親に罪がないと言ったものではありません。罪と障がいは関係ないと言ったのです。盲人はこれを聞いて嬉しかったと思います。この個所を読んで救われた人も多いと思います。重い障がいを持って生まれて来るのは、神のご計画であって意味があり、神がそのように創造されたのです。ここではイエス様は「神の業が現れるため」と言われました。では「神の業」とは何でしょう。ユダヤ人たちが「神の業を行うために何をしたらよいでしょうか」(ヨハネ 6 : 28) と尋ねた時、イエス様は「神がお遣わしになった者(イエス)を信じること、それが神の業である」とおっしゃいました。つまり人間がイエス様を信じるようになることが神の業だと言うのです。そのために病気や障がいになったのだというのです。

実際、Y くんは脳梗塞になり、離れて暮らしているお母さんが直感で「何かあったんじゃないか」と思い、駆け付けて命が助かりましたが、彼は身体障がい者

となりました。でもそれによって彼は教会に戻って来たのです。障子に穴が開けば、向こうの光が入ってきます。それと同じで、病気や障がい、災害や事故によって人生に穴が開いてしまうことがあります。でもその破れた所からその人の人生の中に神様の光が入って来られるのです。信者が起こされる事、それに優る神の業があるのでしょうか。どんな奇跡よりすばらしい奇跡です。もっと神の業を見たいなあと思います。

③【神の働きにより、人は神を知るようになる】

イエス様は地面に唾をし、土をこねてその人の目に塗られました。イエス様は言葉だけでも癒されますが、ここでは泥を塗られました。神は泥をこねて最初の人間を創造しましたが、その同じ御手が泥をこねて目に塗ったという事は、神による新しい創造を意味しています。そして「シロアムの池に行って洗いなさい」（7節）と言われました。シロアムというのは「遣わされた者」という意味でイエス様のことを指しています。つまり洗礼盤に行って洗礼を受けることを意味しているのです。彼は行って洗い、見えるようになって帰ってきました。生まれながら目の見えなかった人が、この世を見た時、ものすごい感動があったと思います。

この生まれながら目の見えない人の癒しは、ただの視覚障がい者が癒された物語ではありません。この生まれながらの目の見えない人とは全人類を象徴しています。なぜなら、すべての人は生まれながらにして神に対する盲人だからです。人は自分の力では神を知ることが出来ません。パウロははっきりと語ります。「世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。」（Iコリント 1：21）人が神を知るためには、神からの働きかけが必要なのです。モーセもパウロも、神が現れて語りかけたので、神を知ることができたのです。

古代教会では洗礼志願者の事を「光照者」と呼びました。「光に照らされる者」という意味です。私の田舎は長野です。夜になると山奥は真っ暗で何も見えません。いくら良い視力を持っていても太陽の光がなければ私たちは何も見えません。この世の光に照らされてこの世のものが見えるようになるのと同じように、神からの光によって私たちは神的なものが見えるようになるのです。神からの光とは聖霊のことです。

礼拝に来ることは神に照らされに来ることです。神の光が入れば神の国、神ご自身、イエス様、罪、救い、この世、未来が見えて来ます。見えて来ると恐れがなくなり、確信が出て来ます。恐れは見えないところから来ます。キリストが小さくしか見えないから不安になるのです。この生まれながらの盲人は、「主よ、信じます」（ヨハネ 9：38）とあって、イエス様をメシアとして受け入れました。一方、ユダヤ人たちは肉体の目が見えても、キリストに対しては盲人でした。肉の目が見えることは幸せですが、見なくてよい物も見てしまいます。この世の物が見えれば幸せになれるのでしょうか。私たちはこの世を毎日見っていますが、飛び上がるくらいに喜び、幸福を感じているかという、そうでもありません。

●だいぶ前になりますが、ユーチューブで生まれつき目の不自由な赤ちゃんが特別の眼鏡をかけて、初めてお母さんの顔を見た時の、感動の瞬間をとらえた映像を見たことがあります。その子は最初は眼鏡をかけられよく分からなかったのですが、母親がその子の名前を呼び、その声の方に目を合わせると、母親がはっきりと見えました。するとものすごくうれしそうな顔で微笑むのです。見えるという事はものすごくうれしい事なんだなあと思いました。

●先日、シャロン千里の礼拝の後、入居者さんの娘さんと1時間くらいお話をしました。彼女のお母さんは、50年以上もの間、新興宗教の熱心な信者さんでした。ところが、娘さんと一緒に沖縄にある外国人の教会の礼拝に出て、その日の内にキリストを信じる者へと変わってしまいました。家に帰って来るなり、熱心に読んでいたお経の本もゴミ箱に捨て、仏壇も捨ててしまいました。前に入っていた新興宗教の友だちが電話をかけてきて「帰っておいでよ」と言っても、「もっと良いものを見つけたから帰らない」と言ったというのです。これこそ聖霊の業、神の業です。

ここにいる人たちの中にもそういう人がいます。もっと良いものを見つけたのです。皆さんは神キリストに向かって目が開いた人です。神の業が皆さんの上に行われたのです。昔、私は神様の愛が見えなくて文句ばかり言っていました。祈りの中で、イエス様に触れられるような体験をした時、神の恵みが見えました。それはものすごく豊かで、私の不満を飲み込み消してしまいました。それほど神の恵みが見えるという事は素晴らしいことなのです。皆さん、ぜひ「主よ、私の魂の目を開いて、あなたのあふれる恵みが見えるようにしてください」と祈りましょう。